

2023-24 年冬の冬道での転倒事故について (その3)

一冬道での転倒者を対象としたアンケート調査からみる転倒時のケガと行動等一

○富田真未¹, 金田安弘², 永田泰浩³

1. はじめに

札幌市では毎年、ひと冬の冬道転倒による救急搬送者が約1000人にもおよぶが、搬送まではなくても実際に転倒でケガをした人数は1万人にもおよぶと報告されている¹⁾。ウインターライフ推進協議会では、冬道での歩行者の転倒事故防止を目指し、様々な普及啓発活動や調査研究、情報発信などの活動を行ってきた²⁾。

2. 調査目的と調査概要

冬道での歩行者転倒事故の要因には、路面の滑りのほか、歩行者の身体能力、転倒防止への意識や備えが関係していると考えられる。また、事前にケガに繋がりやすい行動パターンを知っておくことで、転倒事故を未然に防ぐことに繋がると考える。そこで今回、冬道での転倒の実態を把握するため、Webによるアンケート調査を実施した。

〔調査期間〕2023年12月19日～2024年4月5日

〔回答条件〕2023年度冬期に冬道で転倒した方(1回の転倒体験で1回答)

〔調査項目〕転倒時の場所と路面状況、転倒によるケガの有無、ケガの位置や種類、転倒時の行動、属性、など

3. 調査結果と考察

アンケート回答数は、全172件であった。居住地では「北海道」は81%、「関東」は13%、「東北」は4%であった。年齢は「50歳代」が最も多く、次いで「60歳代」であった。

3.1 転倒してケガをする人の割合

「転んでケガをした人」は39%であった。年齢別では、「19歳以下」と「60歳代」が約60%であった。男女別では、「男性」は24%、「女性」は68%の割合でケガをしており、女性は男性の約3倍近い割合で、転倒するとケガをしやすい傾向がみられた。

3.2 転倒したらどんなケガに繋がるか

ケガの種類では、「骨折」が46%、「打撲」が43%であり、札幌市における冬道での転倒による救急搬送者数の報告と、同じような傾向がみられた³⁾。

また、「転倒してケガをした人」のうち、「病院に行かなかった人」は33%であった。転倒しても擦り傷などはケガをしたと感じにくく、回答しないことも考えられる。

3.3 転倒してケガをした時の体の部位

転倒してケガをした体の位置では、男性は「脚」、女性は「手」が最も多かった。ケガの種類とあわせてみると女性は、「手×挫創」「手×打撲」が多く、その中で「手袋をしていなかった」という回答もあった。現在、ウインターライフのサイトで掲載している「転倒事故によるケガの位置(救急搬送データ)」³⁾では、最も多いのが男女共に「頭部」で、次に「脚」「腰」「足」である。「挫創」や「打撲」では、救急搬送にいたらないことから、貴重なデータを収集することができた。

3.4 転倒してケガに繋がりやすい行動パターン

転倒した際の行動パターン別でのケガの割合は、「両手に荷物を持っていた」は60%、「片手に荷物を持っていた」は43%であ

った。手に何かを持っている状態では、ケガに繋がる割合が多いことが伺えた。また、「急いでいた」は50%の割合でケガに繋がっている(図1)。冬道で転ぶとケガに繋がることを一人一人が認識すること、そのため、今後はより正確な情報として発信できるよう内容を整理する必要がある。

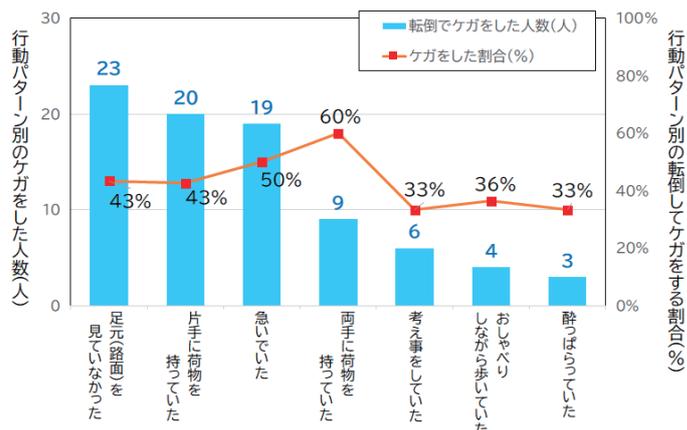


図1 転倒してケガをした人とケガをする割合

4. まとめ

ウインターライフ推進協議会が運営するサイト「転ばないコツおしえます。」で注意喚起してきた転倒しやすい行動パターンについては、本調査結果から概ね同様の結果がみられ、内容に一層の信憑性が増した。今後は、転倒してケガをしやすい行動パターンとしての内容追加を検討したい。

また、北海道新聞社の協力により、本調査への協力について掲載いただき、掲載後に道内の60歳以上の回答数が増えた。また、つるつる路面の発生時期や本州等での積雪日にあわせて各種メーリングリストにて周知を数回行った。いずれも周知後の数日間に回答数が伸びる傾向がみられたことから、回答数を集める上では、情報発信手法として紙媒体とSNSの両方で行うことが重要であるとわかった。

謝辞

本調査の実施にあたり、ご協力いただいたウインターライフ推進協議会の皆様、並びに本アンケート調査への回答のご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 高野伸栄, 戸部啓太郎, 金田安弘, 2015: 札幌市における冬期歩行者転倒事故実態について, 寒地技術シンポジウム, 31, 124-127.
- 2) ウインターライフ推進協議会, 転ばないコツおしえます., <https://tsurutsuru.jp/> (2024.07.01.閲覧)
- 3) 原文宏, 川端隆, 小林英嗣, 1990: 札幌市の冬期歩行環境の安全性について-路上転倒事故の実態調査-, 寒地技術シンポジウム, 6, 151-157.

1 北海道開発技術センター